暑熱時に受胎した長期不受胎牛の管理指導

中丹家畜保健衛生所
○宮城信司　森一憲　矢野小夜子

【はじめに】当所は、JA京都にのくに家畜人工授精師と連携して繁殖巡回を定期的に行っている。その中で、高エネルギー・高蛋白飼料の多給で過肥や肝機能低下により、長期不受胎牛4頭を認めた農家に対し管理指導を行った。【材料及び取組方法】対象は、繁殖和牛を21頭飼養する農家で、平成22年7月に濃厚飼料、粗飼料の給与量及び充足率（DM、TDN、CP）の調査とともに、分娩前後のステージ別に10頭の栄養度判定と血液生化学検査（TP、Alb、T-Cho、Glu、TG、AST、BUN）を実施した。結果を基に給与飼料を見直し、同時に暑熱ストレス軽減のため牛舎の風通しを改善した。約4か月後に栄養度判定、血液生化学検査、受胎経過を調査し指導後の改善状況を確認した。【成績】充足率を100±10%に修正した結果、長期不受胎牛の栄養度判定が平均6.5（太り気味）から5（普通）、高値を示したT-Cho値及びAST値は、それぞれ適正値に改善された。また、4頭の長期不受胎牛は、指導期間中に１～２回の人工授精で受胎し、全体の受胎率も向上した。【まとめ】適正な飼料給与を行うことで、栄養度が過肥から標準、血液生化学性状が適正範囲に近づくことにより、発情兆候や低受胎等が改善され長期不受胎牛を含め牛群全体の受胎率向上を図ることができた。